

証券市場新聞

1 第190号

日経平均株価

2万1087円16銭

▼453円83銭(前日比)

TOPIX

1533.46

▼33.89(前日比)

2019

8/5

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



夏枯れ相場を乗り切る 中小型中心に個別材料株物色



8月は個人投資家好みの材料株物色

8月は個人投資家好みの材料株物色。銘柄物色に好取り組んで業績拡大が見込める銘柄や、AI(人工知能)などテ

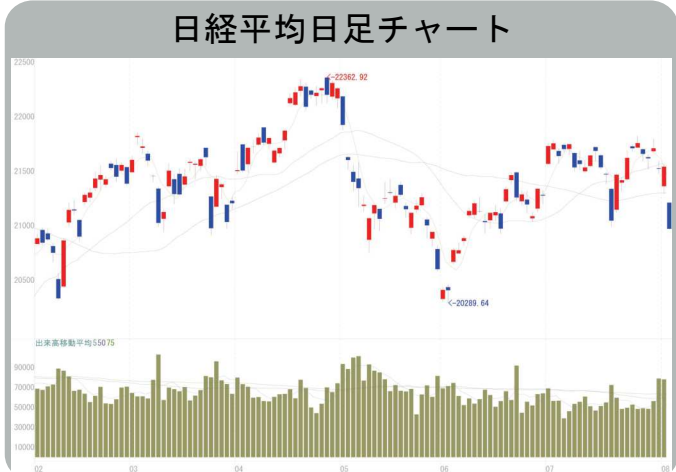
18日の急落後、半導体関連はアク抜け感から大きく戻したものの、基本的にはニューヨーク市場が史上最高値を更新するなかで、日経平均は4月25日の年初来高値2万2366

2円92銭を更新出ない状態であり、日本株の出遅れ感は顕著。これが今後、どのタイミングで是正されるかは何らかのきっかけ待ちになるが、8月相場に限っては例年、大口の買い主体が不在となり、夏枯れ相場になることから、中小型材料株を中心に個人投資家好みの銘柄物色に好取り組んで業績拡大が見込める銘柄や、AI(人工知能)などテ

取組、業績、テーマ性

8月相場に突入した。注目されていたFOMCが通過し、第1四半期決算が一巡すれば、夏休みシーズンに突入するが、そのような状況下での懸念材料は閑散相場。既に7月に入

GMOPイメント(37)ゲートウェイ(69)消費者向けE(C(電子商取引)業)者に決済処理サービスを提供。10月増税時のポイント還元との関連の銘柄の側面。ワイヤル(3)反社チ



個別で狙える銘柄をマリーに乗る。ハリマ化成グループ(4410)持分法会社化したサンパインが通期貢献、信用倍率0.74倍の好取組も支援。

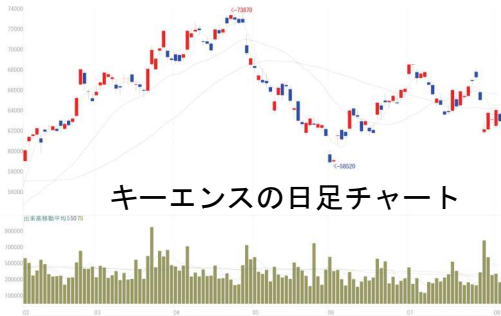
エックツール「RI SK EYES」(リスクアイズ)の引き合い急増。
ウォンテッドリー(3991)ビジネスSNSなどを展開、AIやロボティクス分野のスタートアップに投資するプロジェクトも開始している。

今週の動意銘柄

キーエンス大幅続落

1Q15%営業減益で失望売り

連休明け29日、キーエンス(6861)が大幅続落。20年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益662億2100万円(前年同期比15.3%減)とコンセンサスを大幅に下回り、2ケタ超の減益で着地した。設備投資抑制に加え、米国や一部アジア向けが伸び悩み利益率が低下。通期計画非



公開価格17%上回る
ブシロドの初値
29日、ブシロド(7803)がマザーズ市場に新規上

ソルクシズ営業益14倍
30日、ソルクシズ(4284)がストップ高まで買われ、年初来高値を更新した。19年12月期の業績予想について通期連結営業利益を8億円から9億円(同14.3倍)へ上方修正した。不採算プロジェクトが収束する一方、外注コストの低下、製造業向けソフトウェア開発の大

アズム減額で最安値
30日、アズム(3496)が急落、上場来安値を更新した。19年9月期の業績予想について、通期連結売上高で28億6300万円から27億2000万円(前期比47.8%増)へ、営業利益で2億6000万円から1億円(同39.4%減)へ下方修正した。社内教育体制が不十分で、新規営業人員一人当たり売上高の成長率が計画より遅れている。

フアナク減額も反発
30日、フアナク(6954)が反発。20年3月期第1四半期の連結決算は営業利益285億9500万円(前年同期比47.5%減)と大幅減益ながら、市場コンセンサスを上回り、通期予想を7

ツクルバの初値
31日、ツクルバ(2978)が東証マザーズに新規上場、

場、公開価格1890円を16.6%上回る2204円で初値を付けた。各種IPを使ったトレーディングカードゲーム、オンラインゲーム、映像音楽コンテンツ、イベント、グッズの企画、開発、製造、販売を行う。

ピーシーエ営業益10倍
29日、ピーシーエ(9629)が続騰、年初来高値を更新した。20年3月期第1四半期の連結決算で営業利益が5億8700万円(前年同期比10.3倍)と利益が急拡大した。Windows 7サポート終了に伴う買替需要に加え、クラウド関連サービスの伸びが収益を押し上げた。

正直いいさんの株で大判小判
2日の東京市場は大幅反落になりました。トランプ米大統領が対中関税「第4弾」発動を表明したことで、米中貿易摩擦の激化懸念から前日の米国株が大幅に下落、為替も106円台まで円高が進み、先物主導で売り仕掛けが入り、リスクオフの姿勢が強まりました。自動車など輸出株を中心に売りが広がりほぼ全面安です。

落ちて着きどころを待つ
9日のS&P500は前日比0.1%増の2978.12で、NY市場や為替の動向の底割れが警戒され、着きどころを見るまで半導体などハイテク株も収益への影響が改めて警戒され、状況です。ただ、好決算は続いており、イビデ

花咲翁
57億円から713億円(前期比56.3%減)に減額したものの、保守的との見方につながった。



対中制裁関税第四弾

先週の東京株式市場は、唐突なトランプ大統領の対中制裁関税第四弾の発動公表で大荒れの週末となりました。今回は事前に中国に通告せずツイッターで公表。当然、中国は貿易協議で歩み寄るはずもなく、対抗措置を打ち出すことになるでしょう。のらりくらりと交渉は長引くことになり、米国市場も調整色を濃くすることになるでしょう。

日経平均は2万1000円攻防となってきました。7月18日安値の20993円を割り込んだ場合は6月4日安値の2万0289円を目指すことになり、仮にここを割り込んだ場合は昨年12月安値の1万8948円を目指す二番底形成の可能性が出てきました。8月はパフォーマンスが1年で一番悪い月であり、ここでは好業績で右肩上がり銘柄の押し目を丹念に拾い、噴けば利確という短期投資が望まれるところです。

日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

決算で、営業利益が2309億2500万円(前年同期比18.4%増)とコンセンサスを大きく上回り、2ヶを超の増益で着地したことがポジティブサプライ

ソニー急反発

1Q18%増益がサプライズ

31日、ソニー(675)が急反発、年初来高値を更新した。2019年3月期第1四半期の連結決算で、営業利益が2309億2500万円(前年同期比18.4%増)とコンセンサスを大きく上回り、2ヶを超の増益で着地したことがポジティブサプライ

ズになった。業績好調で未定としていた第2四半期末配当を20円としている。千代化構成銘柄除外

31日、バンダイナムコホールディングス(7832)が継続する一方、千代田化工建設(6366)が急落した。日本経済新聞が日経平均構成銘柄について8月1日から千代化を除外し、バンダイナムコHDを組み入れることから、入れ替わりに絡む動きが出た。

メガバンクを買い戻す

1日、三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)をはじめメガバンクが高いFOMCで米政策金利が10年半ぶりに引き下げられたが、パウエルFRB議長は「政策のサイクル半ばでの調整」と述べ、過度の利下げ期待をけん制、一時2.00%台に低下していた米長期金利が時間外取引で2.05%台まで上昇しており、長短

カプコン急伸し高値

週末2日、カプコン(9667)が急伸、年初来高値を更新した。2019年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益77億3000万円(前年同期比50.8%増)と大幅増益となったことを好感。利幅の大きいダウンロード販売の伸びが利益を大きく

eBASE 17%減益

金利差縮小による利ザヤ縮小懸念が後退し、買戻しが入った。

1日、eBASE(3835)が急落。2019年3月期の第1四半期決算で、連結売上高で8億5500万円(前年同期比3.3%増)、営業

トーカロ上振れ期待

利益で9800万円(同17.0%減)となった。前期の前倒し検収案件による売上減少が圧迫した。

1日、トーカロ(3433)が一段高。2019年3月期の第1四半期決算は、連結売上高で98億9700万円(前年同期比11.0%減)、営業利益で20億10

日製鉄 33%営業減益

押し上げた。(5面 決算記事参照)

2日、日本製鉄(5401)が急落、年初来安値を更新した。2019年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益606億円(前年同期比33.1%減)と大幅な減益となったことを嫌気した。輸出市況分野を中心とした大幅なマージン悪化が影響した。

イビデン 53%増益

2日、イビデン(4062)が急伸、年初来高値を更新した。2019年3月期第1四半期決算は、連結売上高733億100万円(前年同期比2.0%増)、営業利益45億1700万円(同53.1%増)と大幅な増益となった。PKG事業の成長と不採算製品の生産縮小など、事業の選択と集中が利益を押し上げた。

今週の動意銘柄

～決算情報～

三社電機製作所

第1四半期75%営業減益 電源伸び悩みモジュールも不振

三社電機製作所（6882）の20年3月期第1四半期の連結決算は、売上高58億8700万円（前年同期比0.6%増）、営業利益1億3900万円（同74.8%減）、最終利益7000万円（同82.0%減）で着地。電源は銅箔生成用電源や電解コンデンサ用アルミ箔のエッチング用電源が好調で増収を確保したものの、大型案件や収益性の高い金属表面処理用電源が伸び悩み、半導体はモジュールの不振と製品構成の変化により収益性が低下した。

事業環境には厳しさが増しており業績計画を修正、通期について売上高を260億円から245億円（前期比0.5%増）、営業利益を19億円から12億円（同34.6%減）、最終利益を13億5000万円から8億5000万円（同36.5%減）に引き下げた。

日本トリム

1Q減収減益も計画通り 高収益のステムセル研究所順調

日本トリム（6788）の20年3月期の第1四半期（4～6月）は連結売上高41億7200万円（前年同期比1.4%減）、営業利益7億2800万円（同10.4%減）、純利益4億1400万円（同13.6%減）となった。

整水器販売事業において、前期は特殊売上（TI-8000型の補修終了に伴う買い替え）が約2億4000万円あり、期初計画はそれを織り込んで策定したが、計画に沿った進捗となっている。営業利益率が26.5%と高いステムセル研究所は順調に伸長している。

通期は売上高163億6000万円（前期比7.8%増）、営業利益26億3000万円（同16.9%増）、純利益14億8000万円（同18.4%増）と従来予想を据え置いている。

三相電機

第1四半期は66%減益 生産向上など収益改善に取り組む

三相電機（6518）の20年3月期第1四半期の連結決算は、売上高35億8600万円（前年同期比10.0%減）、営業利益1億300万円（同66.2%減）、最終利益7600万円（同66.1%減）で着地。半導体製造装置用ポンプの受注回復が遅れ、省人化・合理化投資ニーズを背景に底堅く推移してきた産業用モータも減速の兆候が見られた。中国向けはモータ、ポンプとも引き合いは堅調ながら価格競争が厳しく、国内外ともに原価高騰が収益を圧迫しており、生産性向上と原価、経費を抑制することで収益を改善する。

通期は売上高143億円（前期比9.5%減）、営業利益4億4000万円（同48.8%減）、最終利益3億3000万円（同49.8%減）と期初予想を据え置いた。年間配当は22円を継続。

ハリマ化成グループ

減収ながら営業増益確保 付加価値シフトと製造原価低減で

ハリマ化成グループ（4410）の20年3月期第1四半期の連結決算は、売上高181億7500万円（前年同期比6.5%減）、営業利益10億9600万円（同8.8%増）、最終利益8億5800万円（同49.2%減）と減収ながら増益を確保した。

欧州を中心に主力の印刷インキ用樹脂の販売数量が減少したが、付加価値シフトによる商品構成の変化と製造原価の低減により、収益性が改善した。最終減益は前年同期に子会社の繰延税金資産を追加計上したことで、利益水準がかさ上げされていたため。

通期は売上高830億円（前期比5.6%増）、営業利益47億円（同0.7%増）、最終利益33億円（同20.1%減）と期初予想を据え置いた。年間配当は38円（前期36円）を予定。

～決算情報～

あじかん

1Qは戦略的経費を計上 物流担う井口産交を子会社化

あじかん(2907)の20年3月期第1四半期累計(4～6月)の連結決算は、売上高107億9200万円(前年同期比1.9%増)、営業損益は1600万円の赤字(前年同期2億5700万円の黒字)、最終損益は4600万円の赤字(同2億6800万円の黒字)で着地した。人件費や車両費が大幅に増加したことやごぼう茶の広告宣伝、営業拠点の整備など、次期成長拡大に繋がる戦略的経費の計上を行ったことが利益を圧迫している。

通期は連結売上高465億円(前期比4.8%増)、営業利益11億5000万円(同15.3%増)、純利益8億円(同13.1%減)の従来予想を据え置いた。

4月1日付で同社の基幹物流の一翼を担ってきた井口産交の全株式を取得し、子会社化している。

アズワン

第1四半期は増収増益確保 WEB取扱商品の品揃えを強化

アズワン(7476)の20年3月期の第1四半期(4～6月)決算は連結売上高156億4000万円(前年同期比1.7%増)、営業利益17億5100万円(同2.9%増)、純利益12億4900万円(同0.1%増)と増収増益となった。eコマース型集中購買やネット通販業者向けが伸長。加えて、WEB上の取扱商品の品揃えが370万点を超え新規の売り上げに貢献していること、ユーザーがWEBから購入できるAXELショップの利用が増加している。一方、2年ぶりに更新した中国語カタログの発刊によりカタログ費が増加している。

通期は連結売上高715億円(前期比7.2%増)、営業利益88億5000万円(同17.0%増)、純利益62億5000万円(同18.7%増)と従来予想を据え置いている。

カプコン

第1四半期51%営業増益 DL販売の伸長が利益押し上げる

カプコン(9697)の20年3月期第1四半期累計(4～6月)の連結決算は、売上高179億3800万円(前年同期比4.3%増)、営業利益77億3000万円(同50.8%増)、純利益は54億2000万円(同38.9%増)と大幅増益となった。

有力タイトルの投入サイクルが端境期となったことにより新作ソフトの発売が移植版タイトルなどの少数にとどまったものの、前期にヒットした「バイオハザードRE:2」などが続伸。これらリピートタイトルが利幅の大きいダウンロード販売の伸長により利益を大きく押し上げた。

通期は売上高850億円(前期比15.0%減)、営業利益200億円(同10.2%増)、純利益140億円(同11.5%増)と従来見通しを据え置いた。

TOA

営業5.1倍で最終黒字に 防災や交通インフラ向けが牽引

TOA(6809)の20年3月期第1四半期の連結決算は、売上高90億800万円(前年同期比3.3%増)、営業利益2億300万円(同5.1倍)、最終損益3100万円の黒字(前年同期3800万円の赤字)と増収で損益が急改善した。

国内で鉄道車両向けは伸び悩んだが、減災・防災市場向けや交通インフラ向け、映像機器の販売が伸び業績をけん引した。海外ではタイで交通インフラ向けが拡大、中国・香港は空港向け案件、米国では商業施設向け大口案件の納入が進み、欧州・中東・アフリカ向けの落ち込みをカバーした。

通期は売上高490億円(前期比5.7%増)、営業利益40億円(同2.5%増)、最終利益24億5000万円(同2.2%減)と期初予想を据え置いた。

チャートから読む 騰落銘柄

OLC(4661)



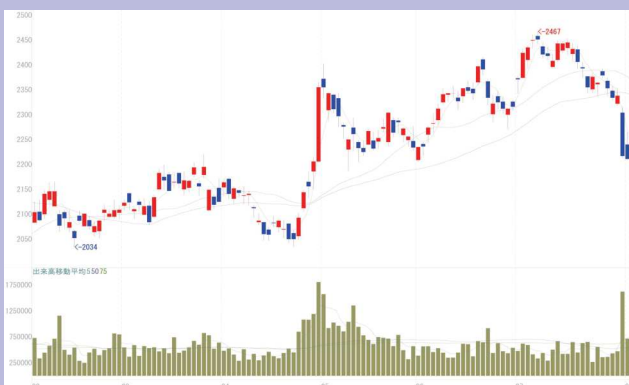
貸借倍率0.31倍の好取り組みをバックに最高値更新続く。7月23日に導入された「ソアリン：ファンタスティック・フライト」が好調で新アトラクション効果も表面化。1万5000円を目指す動き。

トレファク(3093)



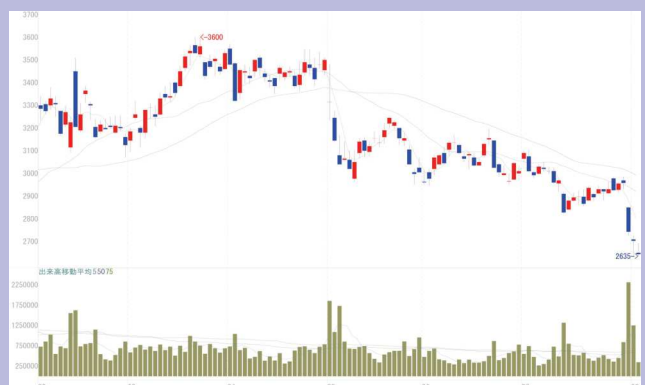
1Q好決算と2Q上方修正発表を契機に下値を切り上げ新値街道を進む。通期上振れ観測に加え、信用倍率0.71倍、貸借倍率0.03倍の好取組みも株価を押し上げ、実質最高値1800円を目指す。

野村不動産HD(3231)



7月5日の2467円の高値更新後に下落基調となり、7月31日には50日移動平均線を大幅に割れる急落。1Q大幅減益で住宅関連で未だ下ブレリスク。下げ止まらなければ2000円トビ台まで下落も。

ポーラオルHD(4927)



2Q大幅減収減益を嫌気、マド空け急落し、年初来安値を更新する。通期計画下振れ懸念が強く、大勢下降トレンドのなか、急降下してくる5日線に上値を抑えられ一段安も。

※チャートは日足

潮流

米国株はブル相場続く

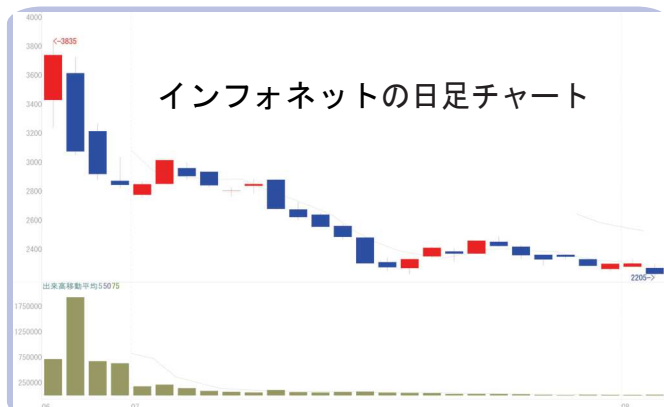
大統領選挙までは強気スタンス



7月31日に米連邦準備理事会（FRB）が米連邦公開市場委員会（FOMC）で10年半ぶりに0.25%の利下げを決めた。

記者会見でパウエル議長が「長い利下げサイクルの始まりではなく中期的な調整だ」と述べると利下げ継続を否定したとの見方が広がり、米国株は急落した。ただ、この市場の反応をネガティブに捉える必要は全くない。これまでの市場の反応を振り返ればわかるように、短期的にボラティリティ（変動率）が上昇する状況になり、投機筋が株価指数先物とのプログラム売買を行っているだけだ。だから、その後強烈なリバーサル相場が発生するのである。FRBの利下げ幅や利下げスタンスが今後の株式市場の重要な要素ではない。米国株というリスク資産の上昇は継続するだろう。

そもそも実体経済の減速は不況型でもなんでもなく、循環型とトランプ大統領が仕掛ける貿易紛争による生産調整の影響が要因だ。だから、米国の家計関連データは堅調であり、サービス産業の状況も堅調を維持しているのだ。それは中国でも同じである。中国の対米輸出はGDPの僅か0.4%程度を占めるだけであり、しかも米中の貿易がゼロになるわけでもない。つま



り、その影響は実は相当乏しい。だから、直近に発表されたファウエイの売上は23%増という懸念された割には他の企業がうらやむほどの高成長を維持しているのだ。

米国は特に今後も実体経済の改善が進んでいくだろう。何故なら、今回の製造業の調整は循環型だからである。今後は、製造業も徐々に改善に向かうだろう。すると実体経済の均衡点ももちろん変化する。つまり、実体経済が改善に向かうと、政策金利を動かさなくても緩和状態が強化されてしまうのだ。結局、過剰流動性相場の中では株価の本格的な調整は起こらないのである。FRBは予防的であっても利下げに踏み切ったことで、当面の利上げリスクが消滅した。この米国の利上げ懸念が後退することが如何にグローバル経済やマーケットへの影響も大きいかを理解できれば、継続的な利下げが行われる期待が後退しても、米国株の上昇トレンドが継続することは容易に理解できる。来年の米大統領選挙までは強気スタンスで望みたい。

潮流銘柄はインフォネット（4444）、フィードフォース（7068）、エイトレッド（3969）。

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

利上げリスク消滅し緩和強化

推奨銘柄に集中買い

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

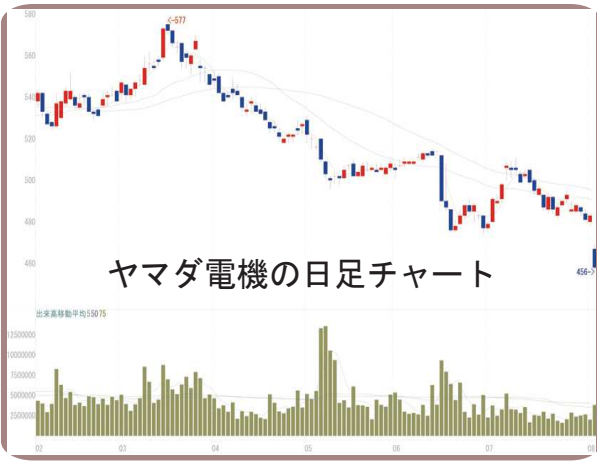
7月31日に米国株式がダウで300ドル余り下落したことをみて、1日の日経平均は160円安でスタートしました。その後、一時230円安の2万1288円まで下落しましたが、次第に買い戻しの動きが強まり、日経平均は前場の引けにかけて下げ幅は大きく縮小し、プラスに転じる場面がみられました。後場に入っても小幅な下落幅から小幅の上げに転じるようになりまし

た。結局、引けでは19円高の2万1540円で終えていました。1日を見る限り、底堅さ

地味ながらヤマダ電機

を印象付ける動きでしたが、トランプ米大統領はその後、現時点で制裁関税の対象となっていない中国からの輸入品3000億ドル(約3兆2300億円)相当に10%の関税を課すと発表しました。NYダウはこれにより280ドル安、225先物もナイトセッションで2万1000トビ台まで急落し、2日の東京市場は急激な円高からも大幅な下落でスタートしています。FOMCでは政策金利を10年半ぶりに0.25%引き下げ、2.0%と2.25%にすることを決めた後にパウエルFRB議長は次の利下げについては発言を見送りました。今回の10%関税への影響は見極めが難しく、パウエル議長が今後、どのどのような金融政策を取るのかは不透明になりました。このような状況下ではチャートストやアナリストなど専門家の予想は軒並み外れる状況です。相場の流れはトランプ大統領が一番理解しているのだと思いますが、過去、トランプ発言で突発的に変動したのちは、沈静化した後に戻す動きが多いことから、まずは落ち着き処を待ちたいところでは大塚ホー

ルディングス(4578)が連続しました。しかし、好決算を見込んでおり、悲観的に見ないで余力があればナンピン買いすべきでしょう。テックファーム(3625)も25日線や50日線に接近する場面では底堅く推移しています。日清紡ホールディングス(3105)やラウンドワン(4680)など当欄紹介銘柄はいずれ上値を迫っていくものとみています。あれこれキョロキョロ目移りしないで、引き続きこうした銘柄を拾う作戦で当面はいいと考えており、一貫して集中買い姿勢で臨むべしです。今回の狙いは地味ながらヤマダ電機(9831)です。安値更新後の落ち着き処から短期リバウンド狙いです。



星野三太郎の 株街往来

～大きな岐路に
立つ自動車業界～

定はないと答えた。数百件訪問して1件でも興味を持ってもらえれば高額商品だけに、訪問営業の努力も報われる。業界トップのトヨタでもドブ板営業を行っているんだなどに関心した。一方、近隣のショッピングモールで頻繁に展示しているのがホンダ。食品スーパー横の展示スペースには買い物に訪れた主婦がN・BOXを試乗する風景をよく見る。商品の質が良くてもそれを知ってもらおうキッカ作りが大事だ。

これら訪問営業や展示スペースでは偶然ながら出会うことが無いのは日産自動車。ゴーン会長の逮捕劇が記憶に新しいが、世界で1万2500人以上の人員削減を打ち出したことで一般消費者的にはマイナスイメージが増すことを危惧する。電気自動車や自動運転を含めて変革の時を迎えており、どのメーカーも戦略を間違えれば、状況は一変してしまう。あらゆる面で自動車メーカーは大きな岐路に立たされていると思う。



訪問営業は

この数年でかなり減った印象を持っていたが、先週末は久々にトヨタの営業マンがやってきた。インターフォン越しの会話では、「現在のお車は何年乗られていますか？」などの質問を受けたが、数年前に買い変えたばかりなのでと買い替えの予定



New product

ナカバヤシ 新フレーバー5種新発売
農業特区のにんにくおかき



にんにくおかき

ナカバヤシ(7987)のグループ会社、兵庫ナカバヤシは、兵庫県養父市内で生産したにんにく「やぶひめ」を使った「にんにくおかき」の新フレーバー5種をインターネット販売を中心に新発売した。

「にんにくおかき」は、国家戦略農業特区の養父市で栽培されたにんにくを使用し、国産100%のもち米に練り込んで香ばしく焼き上げている。今回は新たに、カレー味・バジル味・ブラックペッパー味・梅味・バター醤油味の5種を追加で発売した。

海洋深層水を電気分解

日本トリム

「アイム・ファイン」をニューアル

アイム・ファイン



日本トリム(6788)の「カラダ還元ウォーター」がリニューアルして発売された。

今回、リニューアルされた「アイム・ファイン」は、清浄な海洋深層水を日本トリムの電解水素水整水器で電気分解して作られた世界初の水。日本で初めて海洋深層水の取水に成功した施設から室戸沖の深層水をくみ上げ、塩分のみを取り除いた後、添加物を一切使用せず自然のミネラルで飲みやすい硬度に調整。厳しい衛生管理基準のハサップ(HACCP)の承認を取得した工場生産し、原料の入手から製造まで、すべてにこだわりのぬいである。

企業レター

